

「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

本プログラムは「新産業の実現による新しい価値と豊かな社会の創出をめざし、そのために必要な技術とその基礎となる科学を確立する研究」を対象としています。その背景には、凋落傾向にあるといわれるわが国の研究の実情に対し、今こそ次世代の研究者が先導して革新的な科学と技術システムを生み出すことにより、社会にイノベーションをもたらし、多様で豊かな社会を作り上げなければならないという時代が求める強い要請があります。

第 11 回目の募集となる今回は、募集分野は設けなかったものの、情報、デバイス、材料、環境、エネルギー、医療、生命、バイオなど多彩な分野から 217 名に応募いただきました。応募者の年齢は 30 代・22%、40 代・43%、50 代・28%と幅広く分布しており、女性は 8 名でした。

応募いただいた申請書は経験豊富な 15 名の選考委員が慎重に審査しました。事前に、分野、年齢、性別、地域などでバランスはとらないことを確認したうえで、「魅力的な新産業につながる可能性が感じられるか」「研究者自身の自由な発想にもとづく研究で、新しい価値を生み出しうる学術的に高い水準の内容と構成になっているか」という観点で評価しています。その際、細分化された特定の学問分野を深めるというよりもその枠を超えた新しい学問領域を切り開く可能性を持つか？さらにはデジタル社会を迎えた現在にあって、次の時代を先導し社会を変える未来開拓型の研究になりうるか？ といったことにも注目し議論しています。

申請書に基づく1次の審査・議論と本人のプレゼンによる2次の選考を経て、数多くの優れた研究提案をいただいた中から最終的に11名の研究者を選考しました。いずれも時代を先取りした魅力に富む課題が選出できたと選考委員一同は考えています。残念ながら本年度は女性の採択がありませんでしたので来年度に期待したいと思っております。

キヤノン財団による研究助成の特徴は、課題採択後も研究の進展に応じて選考委員が適宜相談に応じ、アドバイスする機会を設けていることです。また、分野の異なる研究者が交流する場が年に何度かあり、専門家同士とは違う形で刺激しあうこともできます。採択された研究者にはそうした機会もうまく活用して、自ら描いた構想に対して果敢に、そして意欲的に挑戦してその実現をめざしていただきたいと思います。財団および選考委員としてもそれをしっかり支援していきたいと考えています。